

1. 平成 30 年度 科内目標

《業務目標》

1. 千葉市地域包括ケアシステムへの協力。
国の推進している地域包括ケアシステムを市職の療法士として千葉市の取り組みに協力する。
病院主催の公開講座等の地域活動に協力して市民の健康維持増進に貢献する。
2. 新生児 1500g 以下の極低出生体重児へのリハビリ介入を確立する。
スタッフ教育と実施内容の確立を進め、新生児科スタッフとのカンファレンスの標準化を図る。
3. 休日リハビリ対応の継続
月曜日から土曜日まで充実したリハビリテーションを提供する。土曜日と平日直後の祝日は 4 名体制、休日後の祝日は 3 名体制として、日曜日以外は連続したリハビリテーションを提供。
4. 他部署との連携強化の継続
各病棟とのカンファレンス、各科の医師回診への参加を継続し課題や今後の実施方法の検討を行う。

《数値目標》

1. 患者件数の増加 29 年度の実績 13,000 件以上を目指す。
2. 療法士 1 人あたり、1 日算定単位数の年間平均を 18 単位とする。
3. 業務の効率化を図り、時間外勤務時間数の是正を図る。一ヶ月 1 人 10 時間以下を目指す。

2. 診療体制（施設基準・特徴・臨床活動）・スタッフ

当科は、外来スペースにリハビリ室 1 (81.0 m²)と言語聴覚室(10.62 m²)、4 階病棟に病棟リハビリ室 2 (32.63 m²)を設けている。

施設基準

脳血管疾患等リハビリテーションⅡ
廃用症候群リハビリテーションⅡ
運動器疾患リハビリテーションⅠ
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
がん患者リハビリテーション

スタッフ 10 名

医師 1 名

理学療法士 6 名

作業療法士 2 名

言語聴覚士 1 名

リハビリテーション部門として、月曜から土曜日まで連続したリハビリテーションを提供している。

術後や入院早期から離床を促し、疼痛コントロール、廃用症候群の予防、機能維持・改善、生活に必要な可動域や筋力の獲得、生活動作獲得、応用動作の指導を行っている。

医師回診や病棟カンファレンスに積極的に参加し他部門との連携を図りながら個々の患者に合った対応を行っている。

3. 年間統計

表1, 平成30年度診療科別
リハビリ提供件数

診療科	延べ件数
内科(消化器等)	4635
外科	4342
新生児科	2136
小児科	1152
循環器内科	735
整形外科	646
産科・婦人科	321
その他	93
合計	14060

(件)

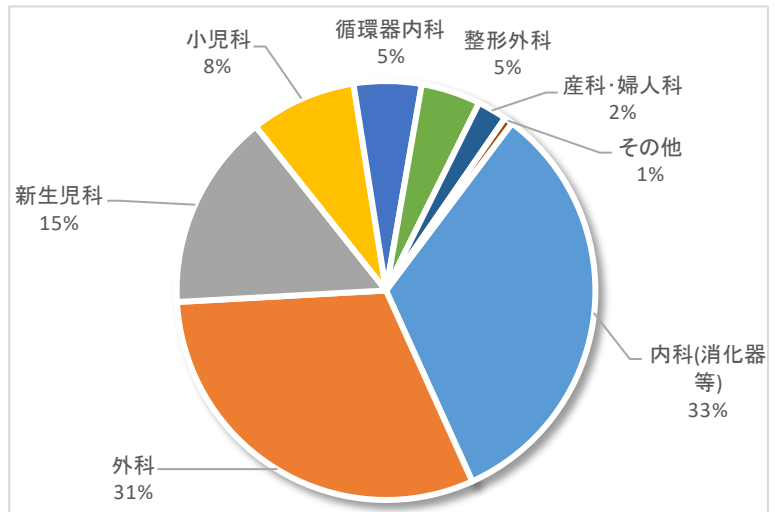


図1、平成30年度診療科別
リハビリ提供件数

表2, 平成30年度疾患別
リハビリテーション提供件数

疾患別リハ	延べ件数
廃用リハ料(Ⅱ)	4250
がん患者リハ料	3519
脳血リハ料(Ⅱ)	3075
呼吸器リハ料(Ⅰ)	2143
運動器リハ料(Ⅰ)	1004

(件)

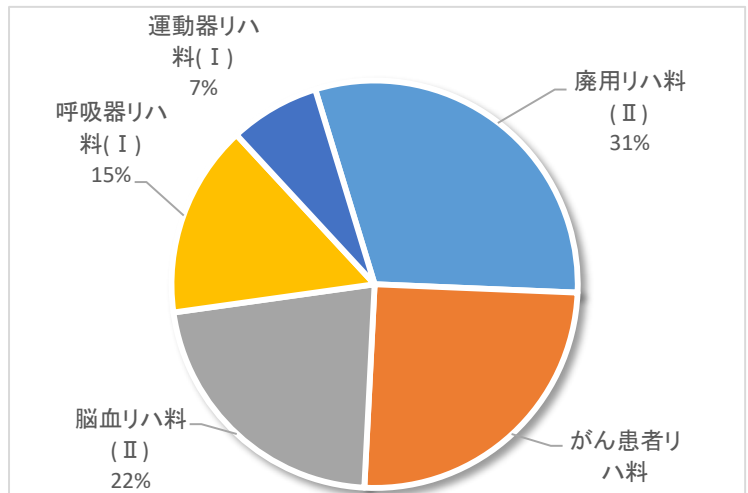


図2、平成30年度疾患別
リハビリテーション提供件数

4. 1年間の総括

平成30年度は、新たな取り組みとして千葉市が行っている地域包括ケアシステムへの協力を行った。各区で2回ずつ12回行われた千葉市自立促進ケア会議の10回に参加協力した。理学療法士・作業療法士の専門職として、ケアマネージャーが作成したケアプランの助言を行った。

更にあんしんケアセンター主催のヘルスアップ教室(高齢者の集いの場を作る取り組み)への派遣。地域問題や課題を多職種で検討する多職種連携会議(美浜区と花見川区)への参加も積極的に行った。病院主催の公開講座でも高齢者の「健康寿命の延ばし方」の講演を行い、地域住民へのサポート活動に積極的に参加協力を行った1年であった。

新生児1500g以下(極低出生体重児)へのリハビリ介入では、入院後2週間でリハビリオーダが出され退院までの評価・ポジショニング・発達援助を実施。退院後のフォローアップも行える体制となり、新生児科からのリハビリ件数は前年に比べ1,000件以上増加する結果となった。

休日リハビリでは、休日の新患対応も行いながら、平日の約6割の患者対応を継続する事が出来た。昨年以上に患者サービスの充実が図れている。

患者件数も14060件に増加、昨年の13,000件を上回り、目標を達成した。

療法士1人1日の単位数については、今年度平均は17.4単位、目標の18単位にはとどかなかつたが、昨年平均の16.8単位を上回って目標に大きく近く事が出来た。平均値では目標に達していないが、個々人の実績では数名が目標の18単位を超える実績を上げている。

時間外業務時間数の是正では、前年度、時間外合計980時間で1人1ヶ月10.2時間。今年度は時間外合計1,043時間で1人1ヶ月10.9時間となった。若干前年より増加する結果となってしまったが、これは病院内や院外の地域包括ケア推進活動業務を積極的に行う中、患者件数も増加出来た結果で、多種多様な業務が増える中で、より効率の良い業務分担を行った中で生じた評価出来る結果と考えている。

5. 今後の目標

昨年同様、千葉市の病院・市職の役割として、千葉市地域包括ケアシステムの推進への協力を継続し、院内の今後の発展に向けた取り組みも進める。

- ・千葉市自立促進ケア会議の協力
- ・千葉市地域リハビリテーション活動支援事業への協力
- ・院内・院外公開講座の開催、協力
- ・認知症院内デイケアの協力
- ・褥瘡対策に伴う離床の推進
- ・切迫早産、産後のための産前リハビリ教室の開催